

2019年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2018年11月8日

 **日総工産株式会社**

東証1部 コード6569

・2019年3月期第2四半期の決算概要及び2019年3月期業績予想につきましてご説明いたします。

1

2019年3月期 第2四半期 決算概要

・はじめに、2019年3月期第2四半期決算概要についてご報告いたします。

2019年3月期 第2四半期 連結業績ハイライト (P/L)



- ◆日総工産 技能社員のアカウント企業への配属を推進し、業績は順調に伸張
- ◆日総ニフティ すいとぴー東戸塚の入居者増加により売上増となるが、先行投資費用が引き続き発生

(単位：百万円)

| | 2018年3月期第2四半期 | | 2019年3月期第2四半期 | | 対前年同期比 | |
|----------------------|---------------|--------|---------------|--------|--------|-------|
| | 実績 | 構成比 | 実績 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 28,073 | 100.0% | 32,783 | 100.0% | 4,709 | 16.8% |
| 売上総利益 | 4,864 | 17.3% | 5,508 | 16.8% | 643 | 13.2% |
| 販管費 | 4,178 | 14.9% | 4,593 | 14.0% | 414 | 9.9% |
| 営業利益 | 686 | 2.4% | 915 | 2.8% | 229 | 33.4% |
| 経常利益 | 674 | 2.4% | 930 | 2.8% | 256 | 38.0% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 445 | 1.6% | 588 | 1.8% | 142 | 32.0% |

(注) 2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成しておりません。

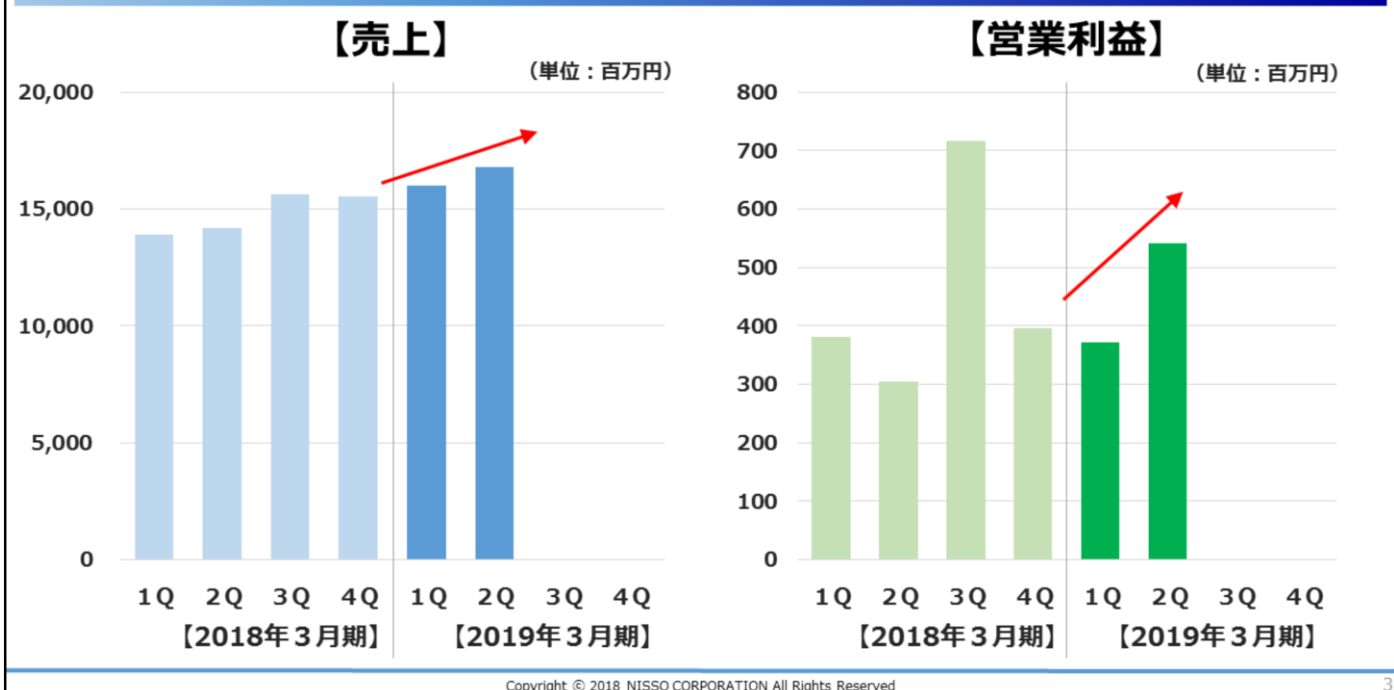
Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

- ・2019年3月期 第2四半期の連結業績についてご説明いたします。
 なお、2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成していないため参考値であります。
- ・売上高につきましては、
 327億83百万円（前年同期比47億9百万円、16.8.%増）となりました。
 増収要因といたしましては
 - ①製造系人材サービスにおいて、在籍者数の増加および一人当たり売上高が増加し、増収となりました。
 - ②その他の事業において、「すいとぴー東戸塚」の入居者増加により増収となりました。
- ・売上総利益につきましては、
 55億8百万円（前年同期比6億43百万円、13.2%増）となりました。
 増益要因といたしましては
 - ①製造系人材サービスにおいて、売上が増加いたしました。一方、技能社員を中心とした研修費用、住居関係の先行投資費用として約2億円発生いたしました。
 - ②その他事業において、介護施設「すいとぴー東戸塚」の先行投資が発生いたしました。

これらにより、売上総利益率は0.5ポイント低下いたしました。
- ・営業利益につきましては、
 9億15百万円（前年同期比2億29百万円、33.4%増）となりました。
 増益要因といたしましては
 - ①製造系人材サービス事業において、事業強化に伴う人件費や社員募集費などが増加する一方、販管費比率の低減に向けた取り組みを推進いたしました。
 - ②その他の事業においては「すいとぴー東戸塚」の開設に伴う諸費用が増加いたしました。

- ・経常利益につきましては、
9億30百万円(前年同期比2億56百万円、38.0%増)となりました。
これは借入金の減少に伴う支払利息の減少などによるものであります。
- ・親会社に帰属する四半期純利益につきましては、
5億88百万円(前年同期比1億42百万円、32.0%増)となりました。
これは法人税等の増加などによるものであります。

2019年3月期 四半期単位の連結業績推移



Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

3

- ・2018年3月期からの四半期単位の売上と営業利益の推移についてご説明いたします。
- ・2019年3月期第2四半期は前期より順調に伸張しております。
- ・2018年3月期の営業利益の期ごとの変動についてですが、第2四半期では、技能社員の育成、入社促進に向けての投資が発生し、第4四半期では、公開関連費用が発生したと共に、アカウント企業を中心とした採用への投資を強化したことによるものであります。
- ・今期の見込みですが、人材サービスの特徴として、売上、利益が上期と比べて、下期に事業規模が拡大していく傾向がございます。
よって、今期も後半に向けて売上、利益が増加していくと見込んでおります。

2019年3月期 第2四半期 連結業績ハイライト (B/S)



【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円,%)

| | 18.3末 | | 18.9末 | | 増減額 |
|-------------|---------------|--------------|---------------|--------------|------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| 流動資産 | 12,753 | 64.2 | 12,939 | 64.3 | 186 |
| 現金及び預金 | 5,283 | 26.6 | 5,117 | 25.4 | ▲165 |
| 受取手形及び売掛金 | 6,791 | 34.2 | 7,153 | 35.6 | 362 |
| 固定資産 | 7,117 | 35.8 | 7,176 | 35.7 | 59 |
| 有形固定資産 | 4,994 | 25.1 | 5,015 | 24.9 | 21 |
| 無形固定資産 | 380 | 1.9 | 356 | 1.8 | ▲23 |
| 投資その他の資産 | 1,742 | 8.8 | 1,804 | 9.0 | 62 |
| 資産合計 | 19,870 | 100.0 | 20,115 | 100.0 | 245 |
| 流動負債 | 8,206 | 41.3 | 8,183 | 40.7 | ▲23 |
| 未払費用 | 4,331 | 21.8 | 4,451 | 22.1 | 120 |
| 未払法人税等 | 632 | 3.2 | 458 | 2.3 | ▲174 |
| 固定負債 | 2,345 | 11.8 | 2,350 | 11.7 | 4 |
| 長期借入金 | 1,883 | 9.5 | 1,832 | 9.1 | ▲51 |
| 負債合計 | 10,552 | 53.1 | 10,533 | 52.4 | ▲18 |
| 株主資本 | 9,130 | 45.9 | 9,386 | 46.7 | 255 |
| 純資産合計 | 9,317 | 46.9 | 9,582 | 47.6 | 264 |
| 負債純資産合計 | 19,870 | 100.0 | 20,115 | 100.0 | 245 |

①事業拡大による増加

売上高の増加により「受取手形及び売掛金」が、派遣社員等に係る人件費の増加により「未払費用」がそれぞれ増加

②全体

納税、約定返済等により負債が減少したことに加え、配当により「現金及び預金」が減少したが、事業拡大による「受取手形及び売掛金」の増加により流動資産が増加し、更に設備投資等により固定資産が増加したことで、資産合計が増加

四半期純利益により株主資本及び純資産合計が増加

(注) 2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成しておりません。

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

4

- ・四半期連結財政の状態については、スライドの説明の通りとなります。
- ・全体的には順調に推移していると言えます。

2019年3月期 第2四半期 連結業績ハイライト (C/F)



【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 18.3期 第2Q累計 | 19.3期 第2Q累計 | 増減額 |
|------------------|----------------|----------------|-------|
| | 金額 | 金額 | |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,227 | 351 | ▲875 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ▲41 | ▲93 | ▲51 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ▲1,061 | ▲424 | 637 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 123 | ▲165 | ▲289 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,369 | 5,283 | 1,914 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 3,493 | 5,117 | 1,624 |

①営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益及び引当金等の増加による収入が前年同期比で増加した一方、事業拡大に伴う売上債権の増加による支出、前期における資本金及び利益の増加により納税による支出が増加したことにより、前年同期比で収入額が減少し、351百万円の収入となった

②投資活動によるキャッシュ・フロー
主に研修施設関係の投資により前年同期比で支出額が増加し、93百万円の支出となった

③財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払が前年同期比で増加した一方、長期借入金の収入に加えて、長短借入金返済による支出が減少したことにより、前年同期比で支出額が減少し、424百万円の支出となった

(注) 2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成しておりません。

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

5

- ・四半期連結キャッシュフローについては、スライドの説明の通りとなります。
- ・キャッシュフローも全く問題はございません。

その他の事業 事業収益



【その他の事業 実績】

(単位：百万円)

| | 18.3期 | | | 19.3期 | | | 18.3期 | 19.3期 |
|---------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|
| | 1Q | 2Q | 下期 | 1Q | 2Q | 下期予 | 通期 | 通期予 |
| 売上高 | 568 | 574 | 1,130 | 587 | 620 | 1,299 | 2,273 | 2,508 |
| 経費 | 584 | 589 | 1,200 | 669 | 685 | 1,385 | 2,374 | 2,739 |
| 営業利益/損失 | ▲16 | ▲14 | ▲70 | ▲81 | ▲64 | ▲85 | ▲101 | ▲231 |

- ◆売上はすいとぴー東戸塚の入居者増加により増加
- ◆すいとぴー東戸塚の開設に伴う人件費、運営費などの先行投資費用が引き続き発生
- ◆入居はほぼ計画通りであり、通期約2億円の営業損失を見込む

◆入居者は計画通り推移

《有料老人ホーム18年9月末日入居者》

| | | | | |
|---------------|------|------|----------|----------|
| 1～5号館 | 入居者数 | 292名 | 入居率94.8% | (定数308名) |
| 6号館(すいとぴー東戸塚) | 入居者数 | 21名 | 入居率22.3% | (定数94名) |

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

6

- ・その他の事業についてご説明いたします。
- ・売上はすいとぴー東戸塚の入居者増加により増加いたしました。
- ・すいとぴー東戸塚の入居はほぼ計画通りでしたが、開設に伴う人件費、運営費などの先行投資費用が引き続き発生いたしました。
- ・通期約2億円の営業損失を見込んでおります。
- ・有料老人ホームの入居状況について
既存施設の1～5号館の入居者数は定数308名に対し、292名が入居しており、入居率は94.8%となっております。
2018年3月に開設した6号館(すいとぴー東戸塚)の入居者数は、定数94名に対し21名、入居率は22.3%となっております。

2019年3月期 第2四半期 単体業績ハイライト



- ◆自動車、電子部品業界からの旺盛な需要が続く中、アカウント企業を中心に高単価取引先への技能社員投入により売上、利益が増加
- ◆増員に伴う住居や教育などの先行費用により売上総利益率は前期比減となるが、販管費の増加抑制に努めたことにより、営業利益率は前期比増となる

(単位：百万円)

| | 2018年3月期第2四半期 | | 2019年3月期第2四半期 | | 対前年同期比 | |
|--------|---------------|--------|---------------|--------|--------|-------|
| | 実績 | 構成比 | 実績 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 24,983 | 100.0% | 29,969 | 100.0% | 4,985 | 20.0% |
| 売上総利益 | 4,437 | 17.8% | 5,228 | 17.4% | 790 | 17.8% |
| 販管費 | 3,787 | 15.2% | 4,251 | 14.2% | 463 | 12.2% |
| 営業利益 | 650 | 2.6% | 977 | 3.3% | 326 | 50.3% |
| 経常利益 | 627 | 2.5% | 983 | 3.3% | 356 | 56.8% |
| 四半期純利益 | 411 | 1.6% | 629 | 2.1% | 217 | 52.8% |

(注) 2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表は作成しておりません。

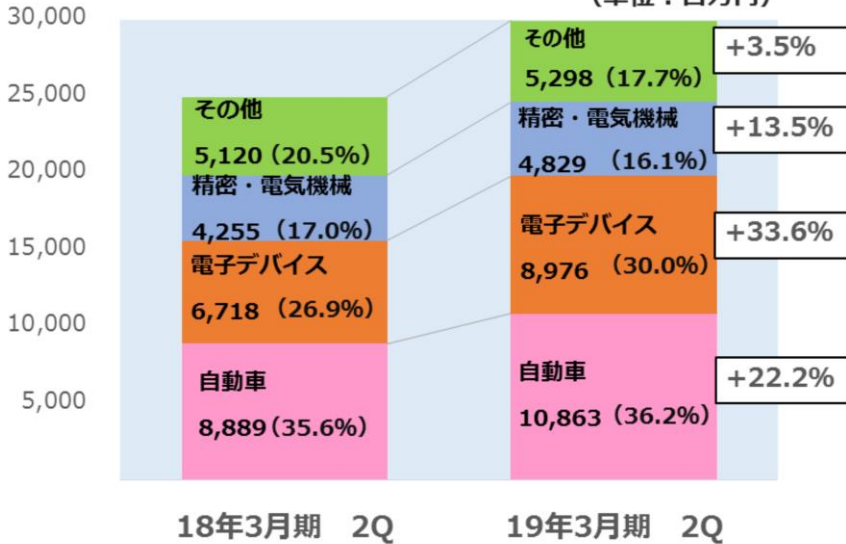
Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

- ・日総工産単体業績についてご説明いたします。
なお、2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成していないため参考値であります。
- ・売上高につきましては、
299億69百万円(前年同期比49億85百万円、20.0%増)となりました。
生産が好調に推移した自動車、電子デバイス企業を中心に重要顧客であるアカウント企業へ技能社員を重点的に配属したことにより一人当たりの売上が増加いたしました。
在籍者数は、処遇の改善や教育機会の充実によって製造スタッフの就業意欲を高め、定着率の向上を図った結果、順調に増加いたしました。
- ・売上総利益につきましては、
52億28百万円(前年同期比7億90百万円、17.8%増)となりました。
一方で、技能社員等の教育関連費用、住居の先行投資が発生し、売上総利益率は0.4ポイント低下いたしました。
- ・営業利益につきましては、
9億77百万円(前年同期比3億26百万円、50.3%増)となりました。
販売費及び一般管理費では、事業強化に伴う人件費や社員募集費が増加いたしました。販管費率の低減に向けた取り組みを推進いたしました。
- ・経常利益につきましては、
9億83百万円(前年同期比3億56百万円、56.8%増)となりました。
借入金の減少に伴う支払利息が減少いたしました。

第2四半期業種別売上（単体）

【売上高構成比推移】

（単位：百万円）



※（ ）内%は全売上比

※□内の%は、対前年同期比伸長率

- 当社シェアの高い自動車、電子デバイス業界をはじめ顧客市場は好調に推移
- 自動車
国内生産は好調に推移
- 電子デバイス
スマホ、車載向け電子、半導体部品の需要は引き続き増加傾向で推移

18年3月期 2Q

19年3月期 2Q

（注）2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表は作成しておりません。

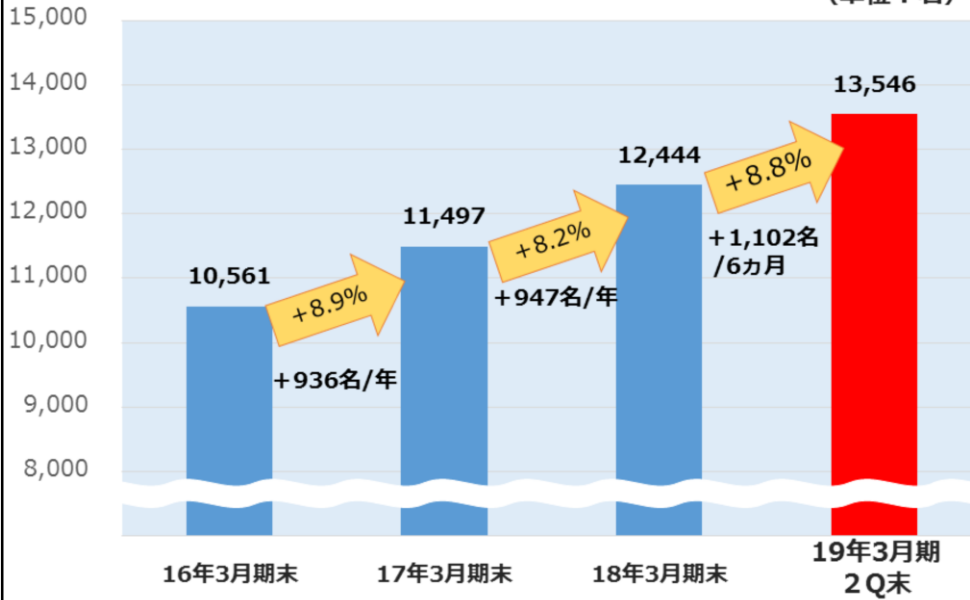
Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

- ・日総工産単体の業種別売上高についてご説明いたします。
なお、2018年3月期第2四半期は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表は作成していないため参考値であります。
- ・業種別売上高の前年同期比となります。
- ・当社の戦略である高付加価値で高単価が見込まれる業種である自動車、電子部品を中心に拡大をしております。
- ・電子デバイスは、スマートフォンや車載向け部品需要の増加により人材需要も増加傾向が続き、前年同期比33.6%増加いたしました。
- ・自動車関係は、国内生産が順調に推移し、人材需要も増加傾向が続き、前年同期比22.2%増加いたしました。
- ・今後につきましても、中長期的なオーダーの状態、要員の状況から着実に売上高は増加していくと考えております。

在籍推移（単体）

【期末在籍人数の推移】

（単位：名）



- 対前期末比
1,102名増（8.8%）
- 自動車、電子デバイス企業を中心に在籍は増加
- 今後の人材需要は引き続き高い状況が見込まれる

[参考]
18年3月期第2Q末在籍
11,797名
対前期末比
300名増（2.6%）

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

・在籍推移についてご説明いたします。

・2018年9月末の在籍数は13,546名となりました。
前期末12,444名より6カ月間で1,102名（8.8%）増加しております。

・増加要因は

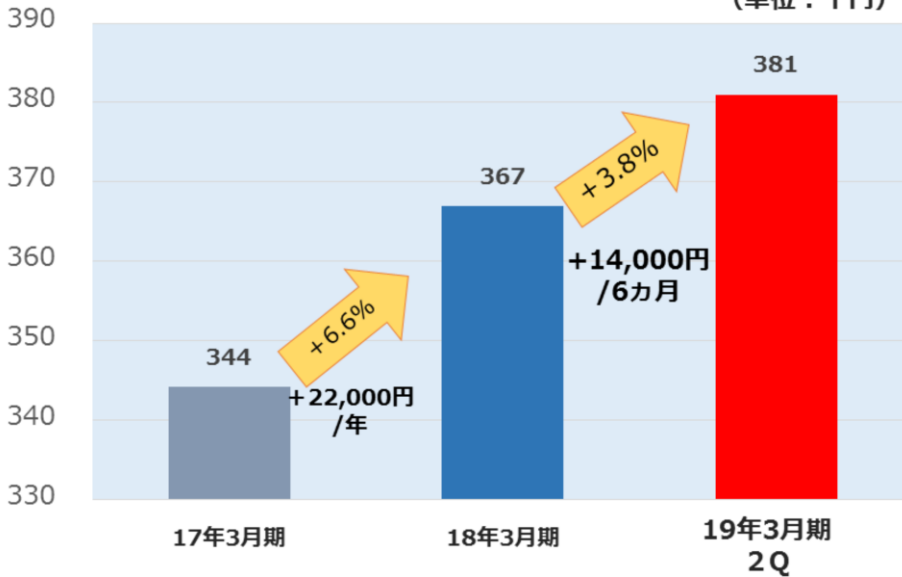
- ①採用活動が順調に行われたこと。
- ②低い離職率が維持されたことでもあります。

参考といたしまして、2017年第2四半期末在籍数は11,797名であり、前期末比300名（2.6%）の増加でした。この前期実績と比較しても、今期は強い基調で伸びてきております。

一人当たり売上推移（単体）

【一人当たり売上高（月平均換算）】

（単位：千円）



- 19年3月期2Q
対前期約14,000円増
(3.8%)
- 前期より引き続き単価交渉の実施、技能社員の投入により一人当たり売上高は増加となる

[参考]
18年3月期第2Q
一人当たり売上 353千円
対17年3月期 9,000円増
(2.6%)

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

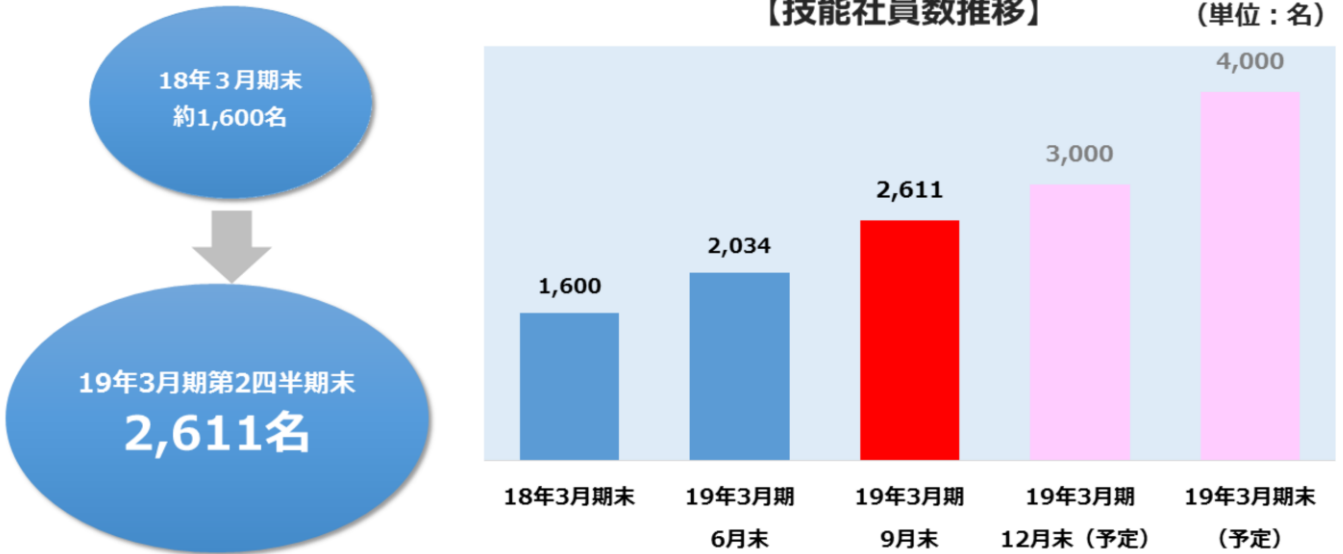
10

- ・一人当たり売上高についてご説明いたします。
- ・2019年3月期第2四半期の月間一人当たりの売上高は381千円となりました。前期2018年3月期の367千円に対し、14,000円(3.8%)増加いたしました。
- ・増加要因といたしましては、アカウント企業を中心とした単価交渉の成果と技能社員の増加によるものです。
- ・これらの取り組みを引き続き推進し、一人当たり売上高の増加を図ってまいります。

参考といたしまして、前年同期の2018年3月期第2四半期の一人当たり売上高は353千円であり、対前期比9,000円(2.6%)の増加でした。

技能社員数（単体）

◆技能社員は計画通りに増加中 19年3月期末には計画通り4,000名を見込む



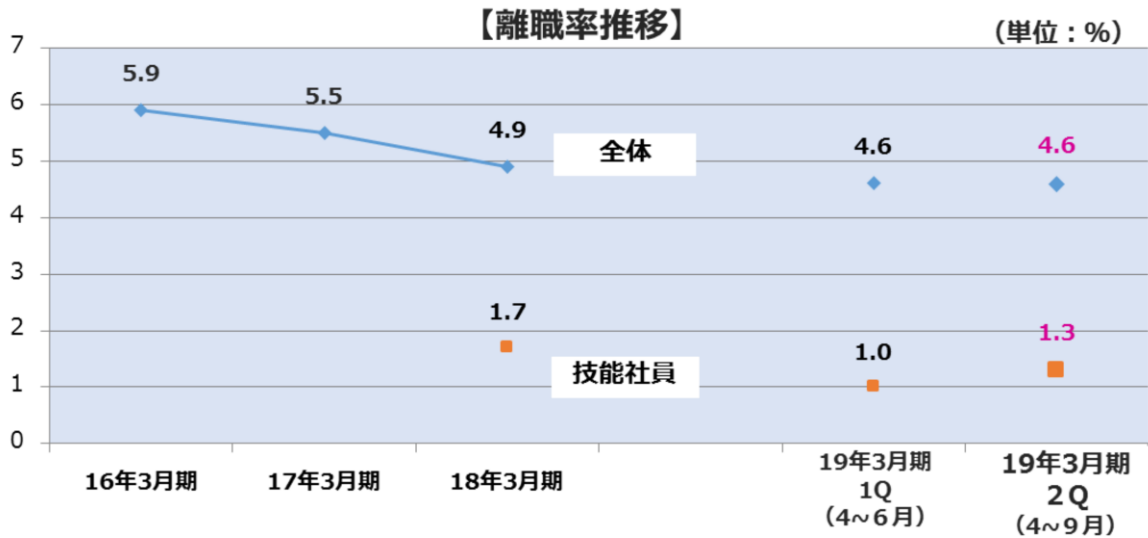
Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

11

- ・技能社員数についてご説明いたします。
- ・2019年3月期第2四半期末時点の技能社員数は2,611名（18年3月期末約1,600名）となっております。
- ・現在も登用、育成を進めており、第3四半期末時点の見込みは3,000名であり、年度末は計画の4,000名を目指します。
- ・この技能社員は、我々の成長戦略の要であり、お客様からのニーズも非常に高い状況であります。
よって、これから先の成長戦略上、非常に大事な指標として每期2,000名づつ技能社員を増やすことを目標としております。

離職率（単体）

- ◆全体の離職率は4.6%を維持
- ◆技能社員の離職率 2Q 1.3%（対1Q+0.3P増加）

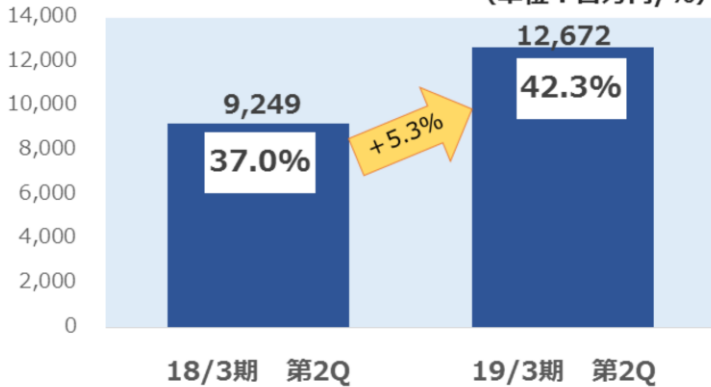


- ・離職率についてご説明いたします。
- ・2019年3月期第2四半期の全社の離職率は、技能社員の離職率が低いことに加え、教育機会や就業者の職場環境の整備を進めていくことにより、就業意欲を高めた結果、全社としては第1四半期の4.6%を維持しております。
- ・技能社員の離職率は、退職者が若干増加したことにより0.3ポイント上昇し、1.3%となりました。しかしながら、在籍数が半年で1,000名以上増加したことから許容範囲と考えております。
- ・当社では引き続き、技能社員を中心とした就業環境のより一層の整備と育成機会の提供による処遇等の改善により、離職率の更なる低減を図ってまいります。

アカウント企業について（単体）

【アカウント企業グループ売上と構成比】

（単位：百万円/%）



- ▶ アカウント企業グループ（自動車/電子部品/精密機器/電機）の生産状況は好調に推移
- ▶ アカウント企業への技能社員の配属強化と単価交渉により、売上増加となり、第2四半期の当社における売上シェア率は42.3%となる
- ▶ 今後もアカウント企業グループの生産動向は引き続き好調を見込む

| | 18年3月期 2Q | 19年3月期 2Q | 増減 |
|------------|-----------|-----------|-------|
| アカウント計(4G) | 9,249 | 12,672 | 3,422 |
| 全売上 | 24,983 | 29,969 | 4,985 |
| 構成比 | 37.0% | 42.3% | 5.3 P |

[参考]

19年3月期第1Q 構成比：41.9%

・アカウント企業の状況についてご説明いたします。

・アカウント企業へ技能社員を集中的に配属する戦略と単価交渉を継続し、アカウント企業における当社シェアの拡大と売上増加を図ってまいりました。
この結果、19年3月期第2四半期のアカウント企業グループの売上は全社売上の42.3%となっており、前年同期の37.0%に対し、大幅に増加しております。
(参考 19年3月期第1四半期 41.9%)

・アカウント企業は自動車、電子部品、精密機械、電機の企業グループであり、今後もこれら企業の国内生産は引き続き好調であり、人材サービス需要も増加していくと見込んでおります。
このアカウント企業を中心に売上拡大していくことが、この先の収益率にも好影響を与えると考えております。

教育実績（単体）



【第2四半期コース別教育実績（延べ人数）】

（単位：名）

| 研修名 | 第2四半期 (7~9月) | 累計 (4~9月) | |
|--------|-----------------|--------------|-----------------------------------|
| 技能社員教育 | 393 | 916 | 技能社員スタンダード教育 |
| 認定訓練教育 | 80 | 143 | 認定職業訓練校（宮城県） |
| 製造教育 | 975 | 2,148 | ものづくりベーシック教育、 製造スタッフ配属前実習、移動教育 |
| 安全教育 | 264 | 466 | 危険体感教育 |
| 保全基礎教育 | 58 | 92 | 設備保全基礎教育 |
| 社員教育 | 61 | 210 | 新卒研修、途中入社者研修、 新任主任教育、業務管理者教育 |
| その他 | | 22 | 外部受託教育 |
| 合計 | 1,831 | 3,997 | |

- 第2四半期教育受講者は1,831名（累計3,997名）
- 保全基礎教育受講者は順調に増加中。受講後は大手半導体メーカーにて就業
- 技能社員教育受講者は、アカウント企業をはじめとした高単価作業所へ配属し、一人当たりの売上は上昇
- 今後もより質の高いサービスを提供していくため、さまざまな教育機会の充実に努める

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

14

- ・教育実績についてご説明いたします。
- ・2019年3月期第2四半期の教育実績は1,831名であり、今期累計では3,997名となっております。
- ・技能社員教育受講者は今期累計で916名であり、この技能社員教育受講者はアカウント企業を中心に高単価作業所へ配属され、売上・利益の拡大に大きく貢献いたしました。
- ・保全基礎教育受講者は順調に増加しており、今後さらに保全者の需要は増加していく見通しであります。これら技能社員教育受講者、保全基礎教育受講者は収益に大きく貢献するため、今後も受講者の増加に取り組んでまいります。
- ・また、製造教育や安全教育をしっかりと行うことによって、有期社員の離職率を抑制できております。
- ・当社では、これら教育の重要性を認識し、本人の就業意欲や顧客へ提供するサービスの質の向上を目指し、引き続き、教育機会の充実に努めてまいります。

◆日総テクニカルセンター 中日本

- ・半導体製造装置メンテナンス教育受講者 6期生 70名
大手半導体製造メーカーにて就業中
- ・長野県知事より認定職業能力開発校として認定（11/1）

教育実績（単体）第1四半期トピックス

【日総テクニカルセンター中日本（長野県岡谷市）】 ※2018年5月1日開所

- 半導体製造装置メンテナンス教育 教育期間：1.5ヶ月
- 開校までの受講者数：3期/33名（1クール10～15名）
- 受講終了後はアカウント企業の手先半導体メーカーにて就業
- 2019年3月期 日総テクニカルセンター中日本受講者数見込み 240名




◆横浜鶴見センター

2018年10月1日 開設
 新たな採用手法として、
 自社・他社含めた人材情報データベース
 を活用した能動的な採用活動をスタート

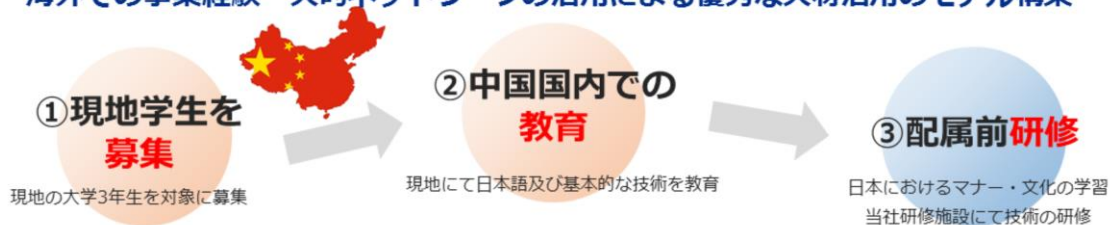


【横浜鶴見センター外観】

- ・活動トピックスについてご説明いたします。
- ・日総テクニカルセンター中日本の稼働状況について
 現時点までに第6期70名が半導体製造装置のメンテナンス教育を受講しております。
 これら受講者は大手半導体メーカーにて就業し、顧客からの高い評価を頂いております。
 今後も半導体製造装置のメンテナンスの需要は増加していく見込みであるため、
 メンテナンス教育の更なる拡充を図ってまいります。
 また、11月1日に「日総テクニカルセンター中日本（長野県岡谷市）」は、長野県知事より
 認定職業能力開発校として認定されました。これは、「日総テクニカルセンター東日本
 （宮城県栗原市）」「東北テクニカルセンター（宮城県富谷市）」に続く当社3校目の
 認定職業能力開発校となります。
- ・横浜鶴見センターを2018年10月1日に開設いたしました。
 この採用センターでは、採用環境がより厳しくなる中、人材情報データベースの登録者と
 企業の要望とのマッチングを行い、その結果をもとにスカウトアクションを行う能動的な
 採用手法により採用数の増加を図ってまいります。
 また、ウェブを通じて面接を行うというような新しい採用手法にも取り組んでまいります。
 これらの取り組みが、今後、当社の採用の強みとなっていくと考えております。

トピックス ～ 新たな採用チャネル

海外での事業経験・人的ネットワークの活用による優秀な人材活用のモデル構築



◆ 中国人新卒者採用 1期生 10名

9/18

日総工産本社にて入社式

9/19～

日総テクニカルセンターにて教育

10/22～

当社取引先に配属



【北華大学本部】



- ・中国新卒学生についてご説明いたします。
- ・2018年9月18日 1期生10名の入社式を本社にて行いました。
- ・入社後、日総テクニカルセンターにて教育を行い、10/22より当社取引先に配属いたしました。

今後の見通し（市場環境と日総グループの競争優位性）

| | 市場環境 | 日総グループの競争優位性 |
|--------|---|---|
| 顧客市場環境 | 自動車（部品） 新技術搭載車をはじめ、自動車生産は好調に推移 半導体・電子部品 スマホや車載向け、その他IoT化が進むことにより 需要は高水準で推移 | 当社シェアの高い自動車、電子デバイスのアカウント企業へ技能社員の配属を推進し、市場シェアの拡大と売上利益の増加を図る |
| 採用環境 | 有効求人倍率は上昇傾向が続く（18年9月1.64倍） 引き続き、就業者の確保が厳しい状況が予想される | 今までの採用方法に加え、10月に開設した横浜鶴見センターを活用した能動的採用を展開することにより採用人数の増加を図る |
| 法環境 | 2018年問題…9月以降に雇止め者が発生する可能性 就業者への教育機会の提供やキャリア形成支援体制の構築が求められる（改正派遣法） | 技能社員への登用、無期雇用への転換を実施 教育施設の活用など様々な教育機会を充実させており、人材の育成を推進していく |
| 結論 | 引き続き人材サービスでは需要増加が見込まれるが、採用環境は厳しい状況が続く 人材サービス事業者は就業者に対し、安定した雇用を提供でき、教育や育成がきちんと行われる企業であることが求められる | 市場環境への対応は既に施策として展開済 さらにこれらの取り組みを推進することで事業の拡大を図り、売上利益の増加を目指していく |

・今後の見通しについてご説明いたします。

・市場環境動向として

- ①主たる顧客である製造業は引き続き好調である。
- ②有効求人倍率の上昇による就業者確保が厳しい状況にて推移する。
- ③派遣事業者は改正労働者派遣法で規定された派遣労働者への教育機会の提供やキャリア形成支援といった対応が求められる。
- ④2018年問題による契約社員、派遣社員の雇止めが発生する可能性がある。
であります。

・当社では、これらの課題に対し、適切な対応策を策定、実施しております。
この状況は当社にとって好環境であると認識し、今後も外部環境の変化を速やかに捉え、適切に対応し、業績の拡大を図ってまいります。

・当社ではアカウント企業を中心に顧客からの情報をもとに半年、1年先のオーダーを予測しており、その状況は顧客では引き続き人手不足の状態が続く、当社の技能社員を中心とした人材配属に期待が高まっております。
よって、技能社員や設備保全員の育成を下期以降も進めてまいります。当社の成長戦略のポイントは、他社では配属が難しい人材を配属し続けていくことであり、これが当社の成長の源泉であり、差別化の源であると認識しております。

2

2019年3月期 業績予想

2019年3月期業績予想についてご説明いたします。

2019年3月期 連結業績予想

◆2019年3月期連結業績予想は、期初予想を据え置き

■売上面では

技能社員の増加、アカウント企業への配属を推進したことによる一人当たりの売上増加やその他の事業の入居者数増加により**増収**の見込み

■営業利益面では

教育や就業者向け住居費用への投資が増加、またその他の事業の新施設への投資が先行するが、大幅な増収および販管費比率の低減に向けた取り組みにより**増益**の見込み

(単位：百万円)

| | 18.3期実績 | | 19.3期予想 | | 対前期比 | |
|---------------------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| | 実績 | 構成比 | 実績 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 59,208 | 100.0% | 65,686 | 100.0% | +6,478 | +10.9% |
| 営業利益 | 1,800 | 3.0% | 2,099 | 3.2% | +299 | +16.6% |
| 経常利益 | 1,781 | 3.0% | 2,144 | 3.3% | +363 | +20.4% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1,014 | 1.7% | 1,376 | 2.1% | +362 | +35.7% |

Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

19

・今期通期の業績予想についてご説明いたします。

①売上高

技能社員が増加し、アカウント企業への配属を推進することやその他事業における新施設の入居者の増加により対前期比増収を見込んでおります。

②営業利益

教育及び就業者向け住宅への投資や、その他の事業における新施設への先行投資があるものの、一人当たり売上高の上昇、在籍数の増加による大幅な増収及び業務の効率化による販管費率の低減により、対前期比増益を見込んでおります。

・当社では四半期単位の計画の公表はしておりませんが、現時点では期初の計画を上回る実績となっております。

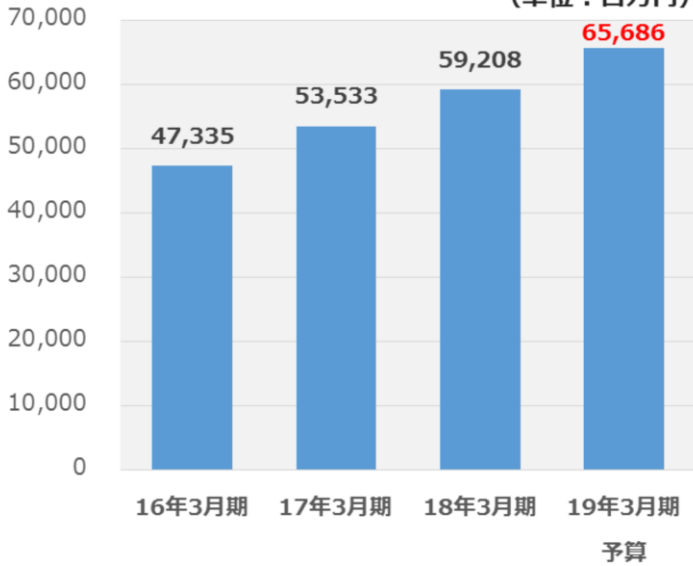
今後の見通しにつきましても、顧客の状況は引き続き好調が見込まれ、アカウント企業である自動車メーカーや電子デバイスメーカーをはじめ多くの顧客より引き続きオーダーを頂いておりますが、顧客であるメーカーは下期の見通しに対し、慎重な姿勢を取っているところが多く、当社においても、下期の業績は好調に推移すると見込んでおりますが、慎重を期して、現時点での通期見通しの修正は行いません。

連結業績推移見込み



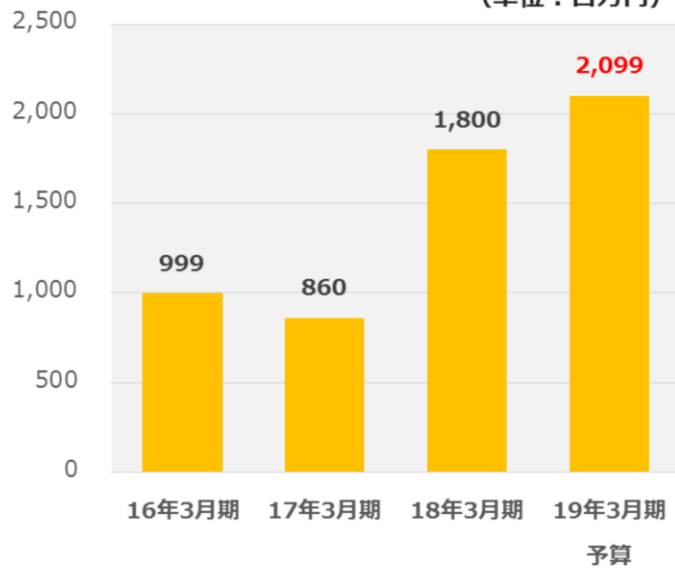
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



Copyright © 2018 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

20

- ・連結業績の推移についてご説明いたします。
- ・2019年3月期の売上、利益は共に前期を上回る見込みであります。

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

今後のIRに関するお問い合わせ先

日総工産株式会社 IR管理部

電話 : 045-777-7630

E-mail : ir@nisso.co.jp

URL : <https://www.nisso.co.jp/>